

2018 年度 GSK 医学教育事業助成の概要

学会名

日本音声言語医学会

正式名称

音声診療の多職種専門家育成と地域住民・患者・医療従事者への音声障害啓発

医学教育事業の概要

1. 音声診療の専門家育成プロジェクト
 - 1) 音声外科ワークショップおよび音響音声学の講義
 - 2) 音声治療ワークショップ/言語障害・構音障害講義
2. 地域住民や患者や医療従事者への音声障害啓発・教育プロジェクト

医学教育事業の対象者

主な医療関係者：医師、言語聴覚士他医療従事者 対象となる医療関係者の想定人数：540 人

医学教育事業の必要性 / 目的

○音声診療の多職種専門家の育成

音声診療に関わる医師や言語聴覚士は少なく、また治療方法や手技が一定していない。講習会と実技演習により医師や言語聴覚士のレベルアップをはかり、「声の専門家」を育成することを目的とする。これにより音声障害の診療の標準化と有効性の検討を行い、そこから音声障害診療領域のエビデンス創出につなげていく。

○地域住民・患者・医療従事者への音声障害の啓発

音声障害について病気や対応を理解することが必要である。早期に適切な治療を受けてコミュニケーション機能を回復し、喉頭癌などの音声障害を初発とする重大な病気を早期発見することを目的に、前項で育成した「声の専門家」により啓発を行う。

医学教育事業の計画・方法等

○音声診療の専門家育成プロジェクト

ワークショップと講義を合せた講習会（医師 25 人、言語聴覚士 15 人程度を募集）を年 2 回実施する。

1) 音声外科ワークショップおよび音響音声学の講義

音声改善手術の手術実習（医師対象）を行う。大学や病院などの実習室で実施する。参加者は近接した講義室において、医師による音声学、物理学領域の講師による音響学や空気力学の講義を受ける。

2) 音声治療ワークショップおよび音声障害・言語障害・構音障害の講義

ワークショップ形式で音声リハビリテーションの実習を行い、音声治療手技の統一と有効性の評価を通じて、音声診療領域のエビデンス創出につなげていく。大学や病院などの音声治療室・セミナー室で実施する。近接した講義室において、医師や言語聴覚士による音声障害、構音障害、言語障害の講義を行う。

○地域住民・患者・医療従事者への音声障害啓発・教育プロジェクト

音声やその障害に関して一般市民・患者ならびに地域の医療従事者向けの講演会を年 1 回実施する。公開講座の形式で地域住民、とくに音声障害を生じやすい教員や歌唱関係者 100 人程度を対象とする。演者は当初は音声治療の熟練者に依頼し、その後は前項のワークショップと講義の受講者で所定のレベルに達した者に順次講演を依頼する。医療従事者への啓発を目的に、地域の医療従事者 100 人程度を対象に講演を行う。全国の大都市で順次実施する。

医学教育事業の効果の測定方法

○音声診療の専門家育成プロジェクト

全体的な専門家育成の効果は、講習会受講後のアンケートや受講者の学術集会参加・発表で評価し、個々の専門能力の向上は、講習会終了時の試験により評価する。

○地域住民・患者・医療従事者への音声障害啓発・教育プロジェクト

講演会・公開講座の効果の測定は、参加者向けアンケートと講演者へのフィードバック、および理解度の評価のための終了時の試験にて行う

以上を年度毎に行い、プロジェクトの改善に資する。

医学教育事業の成果に対する情報共有について

本事業の成果の情報共有について、日本音声言語医学会の HP 上に公開し会報に掲載するとともに、日本音声言語医学会総会・学術講演会において年度ごとに発表を行う。講習会を修了し学術活動を経て評価された者については学会の HP 上で公開し、市民に情報を提供する。さらに、3 年目には、日本耳鼻咽喉科学会や日本言語聴覚士協会に情報提供を行い、音声言語領域以外の領域の医療従事者にも本事業の成果を発信する。